



高商野球部
OB会だより

初出版記念特別版

保存板

部訓

1. 為せば成る
2. 毎日反省努力して精進せよ
3. 闘志を燃やせ
4. 親しき仲にも礼儀あり
5. 健康に留意せよ

部員心得十か条

1. 皆が高松商業高校の生徒であることを忘れずに学生たるの本分を守り、アマチュアの間を發揮せよ。
2. 一校を代表していることを忘れず、責任感に燃えよ。
3. 練習中は自分が一番下手であると思って努力し、試合では自分が一番上手であるとの信念を忘れるな。
4. 強敵を恐れず、弱敵を侮らず、試合の終わるまで諦めず、また油断をするな。
5. 練習場へは真っ先に、練習後は最後に引き揚げるようにせよ。
6. 器具の手入れに注意せよ。バットやグラブは勝敗を決する鍵であると知れ。
7. 新しい靴は試合に使用するな。負傷の原因となる。
8. 爪の切りかたは、長からず、短かからずにはほどよく保て。
9. よく眠り、よく食べるはよいが、程度のあることを忘れるな。
10. 審判員は絶対だが、神ではない。常に公平で、反抗することによりなんらの利益のないことを知れ。

高商野球部後援会の沿革

大正4年、朝日新聞社主催第一回四国大会の決勝戦で、高松中学(現高松高)に敗れた時、武田氏、綾田兄弟氏、牧野兄弟氏等が中心になり、高商野球部の強化を図って結成されたのが高松実業倶楽部。

これを母体として高商ファンを吸収し、技術面・資金面の協力を惜しまず後援を続け、大正13年のセンバツ第一回、大正14年・昭和2年の夏の全国優勝と黄金期をもたらした。戦後、昭和23年、漆原善雄先生が、坂出商業より母校に転勤してきて野球部長となってより、卒業生を中心とした野球部後援会の組織づくりに取り組んだ。

昭和29年夏の戦後初の甲子園出場、30年のセンバツ出場するに至り、この後援会の正式結成を見た。下記歴代後援会長のもと今日に至る。

歴代野球部後援会長

▶初代	岡野 倡三(讃岐薬品)	昭和30年～37年
▶二代	松岡 正雄(松岡木材店)	昭和37年～42年
▶三代	松村 芳文(高松商運)	昭和42年～57年
▶四代	池田伊三郎(池田酒造)	昭和57年～63年
▶五代	水野 高司(東邦建設)	昭和63年～平成7年
▶六代	齋藤 和良(高松青果)	平成7年～現在に至る

高松商業野球部歴代監督

辻 政太郎	石井健一郎	植村 正一	大塚 英一
横井 一甫	志賀 申二	遠山 茂	若宮 誠一
前川 昌三	中山 泰三	岡田 紀明	久保 政道
若宮 誠一	黒坂 季央	藤本 繁	岡田 紀明
松田 正和	谷 豊	浜松 勝之	宮武 学
久保 政道	後藤 慎也	黒坂 季央	長尾 健司

野球殿堂

野球殿堂は 日本野球の発展や隆盛に貢献された方々を表彰し、その功績を永遠にたたえるために1959年につくられました。

2009年までに殿堂入りした方は168人です。母校出身者は次の3名の方々です。

宮武 三郎 (1907年～1956年)

投打に活躍した学生野球のヒーロー。高商ではセンバツで準優勝投手、夏の選手権大会は優勝投手。慶應大学時代剛球投手であり、また重量打者として大活躍。長嶋選手が記録を作るまでは長年本塁打記録を保持していた。また投手としても39勝6敗と剛腕ぶりを示した。阪急でも活躍し、後年日本専売公社の野球部監督を務めた。1965年に母校出身者として初めて殿堂入り。

水原 茂 (1909年～1982年)

巨人軍第2期黄金時代の名監督。高商時代は投手、慶應時代は内野手として花形選手であり、投手としても14勝8敗と活躍する。対アメリカ大リーグ選抜チームを迎えての試合で、全日本軍に選ばれ対戦する。

巨人軍に入団し俊敏・強肩の名三塁手として最高殊勲選手を獲得するなど活躍した。昭和25年から巨人、東映、中日と監督を務め日本シリーズで通算5回の優勝を獲得した。1977年先進的な監督術や指導力が高く評価され殿堂入り。

牧野 茂 (1928年～1984年)

5年生の時、高商野球部から戦後名古屋に転居し愛知商(現瑞穂高)に編入し、戦後初の甲子園出場を果たす。明治大学野球部で俊足攻守の内野手として活躍、中日に入団。その後、解説者時代に巨人軍の川上監督に請われヘッドコーチとして日本一9連覇に貢献する。高度なチームプレーを日本プロ野球界に確立させた功績にて、殿堂入り。

プロ野球界で活躍したOB選手

氏名	入団年度	球団	氏名	入団年度	球団
宮武 三郎	1936	阪急	岡村 浩二	1961	阪急
井川喜代一	1949	東映	山口富士雄	1963	阪急
水原 茂	1936	巨人	島谷 金二	1969	中日
西村 正夫	1936	阪急	吉村 健二	1973	太平洋
矢野 楨雄	1937	金鯨	小坂 敏彦	1969	巨人
桑島 肇	1941	阪急	大北 敏博	1970	巨人
楠 拡応	1938	巨人	細川 安雄	1970	阪急
多田文久三	1941	巨人	植上 健治	1973	阪神
藤井 道夫	1950	阪急	熊田 智行	1985	ヤクルト
三好 主	1942	巨人	大森 剛	1989	巨人
明石 武	1942	巨人	神田 義英	2003	ロッテ
平田 守	1954	阪急	新田 玄気	2008	ヤクルト
牧野 茂	1952	中日	松永 昂大	2012	ロッテ
中村 耕三	1955	巨人	監督試合出場 水原 茂 2782 試合 西村 正夫 721 試合		
田中 尊	1955	南海			
関森 正治	1955	近鉄	※牧野茂は5年時に愛知商へ転校		
藤田 正一	1962	近鉄			
石川 陽造	1962	東映			

高商野球部の歴史

香川県立高松商業高等学校は、明治33年(1900年)創立。野球部は明治42年(1909年)に創部、その輝かしい戦績を残している。春の選抜大会は、決勝に4度進み、第1回(大正13年)大会と第32回(昭和35年)大会で全国優勝、夏の選手権大会では、第11回(大正14年)大会と第13回(昭和2年)大会に全国制覇を果たしている。

また、国民体育大会では、第13回(昭和33年)大会で優勝している。これまで44回(春25回、夏19回)の甲子園出場で、ベスト8以上が21回を数え、通算54勝を挙げている。

以上の輝かしい戦績、全国優勝を現ストッキングの色(白・赤・黄)に表して、6度目の全国優勝を目指して練習に励んでいる。



甲子園 勝敗ランキング

選抜高校野球大会					全国高等学校野球選手権大会				
順位	高校名	都道府県	勝敗	標準優劣	順位	高校名	都道府県	勝敗	標準優劣
1	中京大中京	愛知	55勝26敗	4 4 5	1	中京大中京	愛知	76勝19敗	7 0 6
2	東邦	愛知	50勝23敗1分	4 2 3	2	松山商	愛媛	60勝21敗1分	5 3 4
3	PL学園	大阪	48勝17敗	3 1 6	3	龍谷大平安	京都	59勝30敗	3 4 1
4	岐阜商	岐阜	46勝24敗1分	3 3 4	4	PL学園	大阪	48勝13敗	4 3 0
5	広陵	広島	37勝20敗1分	3 3 3	5	天理	奈良	45勝24敗	2 0 2
5	龍谷大平安	京都	37勝37敗1分	1 0 4	6	広島商	広島	43勝15敗	6 1 1
7	大体大浪商	大阪	32勝17敗2分	2 3 1	7	岐阜商	岐阜	39勝27敗	1 3 3
7	高松商	香川	32勝23敗	2 2 2	7	早稲田実業	東京	39勝27敗1分	1 2 2
9	報徳学園	兵庫	29勝18敗	2 0 4	9	高知商	高知	36勝22敗	0 1 3
10	日大三	東京	26勝17敗	1 3 1	10	智弁和歌山	和歌山	35勝18敗	2 1 2
10	天理	奈良	26勝21敗	1 0 1	11	横浜	神奈川	32勝13敗	2 0 3
12	箕島	和歌山	24勝 6敗	3 0 2	11	桐蔭	和歌山	32勝18敗1分	2 3 4
12	明德義塾	高知	24勝15敗	0 0 2	13	帝京	東京	30勝10敗	2 0 2
14	横浜	神奈川	23勝12敗	3 1 0	14	大阪桐蔭	大阪	29勝 4敗	4 0 1
14	高知商	高知	23勝13敗	1 2 0	14	明德義塾	高知	29勝15敗	1 0 2
16	池田	徳島	22勝 6敗	2 1 2	14	熊本工	熊本	29勝20敗	0 3 1
16	早稲田実業	東京	22勝19敗1分	1 1 1	14	広陵	広島	29勝21敗	0 3 0
18	智弁和歌山	和歌山	21勝10敗	1 2 0	18	東北宮城	宮城	28勝21敗	0 1 1
18	帝京	東京	21勝13敗	1 2 1	19	報徳学園	兵庫	26勝13敗	1 0 2
20	東海大相模	神奈川	20勝 7敗	2 2 0	20	銚子商	千葉	25勝11敗	1 1 0
20	松山商	愛媛	20勝14敗	2 1 2	20	常総学院	茨城	25勝14敗	1 1 1
20	徳島商	徳島	20勝18敗	1 0 3	20	仙台育英	宮城	25勝24敗	0 1 0
23	上宮	大阪	19勝 7敗	1 1 2	20	松商学園	長野	25勝34敗	1 1 3
23	広島商	広島	19勝20敗	1 1 1	24	日大三	東京	23勝14敗	2 0 0
25	高知	高知	18勝16敗	1 1 1	24	樟南	鹿児島	23勝18敗	0 1 1
26	浦和学院	埼玉	17勝 8敗	1 0 1	24	鳥取	鳥取	23勝23敗	0 0 4
27	市神港	兵庫	16勝 6敗	2 0 1	27	高松商	香川	22勝17敗	2 0 1
27	愛工大名電	愛知	16勝 8敗	1 1 0	27	静岡	静岡	22勝22敗	1 2 0
27	桐生	群馬	16勝12敗	0 2 2	29	徳島商	徳島	21勝23敗1分	0 1 1
27	熊本工	熊本	16勝20敗	0 0 4	30	池田	徳島	20勝 8敗	1 1 1
					30	沖縄水産	沖縄	20勝 9敗	0 2 1
					30	今治	西愛媛	20勝11敗	0 0 3
					30	東洋大姫路	兵庫	20勝11敗	1 0 1
					30	智弁学園	奈良	20勝17敗	0 0 1
					35	習志野	千葉	19勝 6敗	2 0 0
					35	作新学院	栃木	19勝 9敗	1 0 2
					35	宇部商	山口	19勝12敗	0 1 1
					35	福井商	福井	19勝22敗	0 0 1
					39	八戸学院光星	青森	18勝 7敗	0 2 1
					39	東海大甲府	山梨	18勝12敗	0 0 3
					39	星稜	石川	18勝17敗	0 1 2
					42	育英	兵庫	17勝 5敗	1 1 2
					42	静岡商	静岡	17勝 9敗	0 2 0
					42	大体大浪商	大阪	17勝11敗	2 0 1
					42	東邦	愛知	17勝16敗	0 1 1
					42	鹿児島実業	鹿児島	17勝17敗	0 0 2
					42	北海	北海道	17勝35敗	0 0 1
					48	興南	沖縄	16勝 8敗	1 0 1
					48	津久見	大分	16勝11敗	1 0 0
					48	高知	高知	16勝12敗	1 0 0
					51	横浜商	神奈川	15勝 7敗	0 1 1
					51	下関商	山口	15勝 8敗	0 2 1
					51	小倉	福岡	15勝 8敗	2 0 1

【ストッキングの線色】

- 白色→夏の選手権大会優勝…2本
- 赤色→春の選抜大会優勝…2本
- 黄色→国民体育大会優勝…1本



- ▶明治42年
高松市立商業高校に野球部誕生
- ▶大正13年
第1回 全国中等学校選抜野球大会 優勝
- ▶大正14年
第2回 全国中等学校選抜野球大会 準優勝
第11回 全国中等学校野球大会 優勝
- ▶昭和2年
第13回 全国中等学校野球大会 優勝
- ▶昭和35年
第32回 全国選抜高等学校野球大会 優勝
- ▶昭和36年
第33回 全国選抜高等学校野球大会 準優勝

監督実績	出場回数	試合数	優勝	準優勝
辻政太郎	2	3		
石井健一郎	1	3	1	
植村正一	4	16	2	1
大塚英一	7	15		1
若宮誠一	12	26	1	1
久保正道	10	17		

高松商業高校 野球史

選抜高校野球大会			全国高等学校野球選手権大会			
年度	回数	成績	監督名	回数	成績	監督名
大5年				2回	1回戦 関学中 1-2	辻政太郎
					2回戦 慶應普通部 9-3	
大6年				3回	1回戦 盛岡中 5-1	辻政太郎
大13年	1回	1回戦 和歌山中 6-7	石井健一郎			
		準決勝 愛知一中 1-7	同		夏 高松中学に20-0で負け	
		優勝 決勝戦 早稲田実業 0-2	同			
大14年	2回	1回戦 市岡中 0-10	植村正一	11回	2回戦 東山中 0-14	植村正一
		2回戦 和歌山中 5-3	同		3回戦 静岡中 1-4	同
		準決勝 愛知一中 1-3	同		準決勝 大連商 2-9	同
		準優勝 決勝戦 松山商業 3-2	同	優勝	決勝戦 早稲田実業 3-5	同
大15年	3回	1回戦 八尾中 1-8	同			
		2回戦 松本中 5-2	同		夏 松山商に2-1で負け	
昭2年	4回	1回戦 松本中 5-3	同	13回	1回戦 第一神港 1-8	植村正一
					2回戦 北野中学 1-8	同
					3回戦 福岡中 0-1	同
					準決勝 愛知商 0-1	同
					優勝 決勝戦 広陵中 1-5	同
昭3年	5回	1回戦 市岡中 0-2	大塚英一	14回		
		2回戦 愛知商 0-2	同			
		準決勝 関学中 4-2	同			
昭4年	6回	1回戦 関学中 1-6	同	15回	2回戦 諏訪蚕糸 0-1	大塚英一
		準々決勝 愛知一中 5-2	同		準々決勝 海草中 6-3	同
昭8年	10回	1回戦 台北中 4-6	同			
		2回戦 享栄中 11-10	同			
昭14年	16回	2回戦 平安中 5-3	同	25回	2回戦 山形中 2-9	大塚英一
					準々決勝 島田商 2-1	同
昭15年	17回	1回戦 海南中 1-2	大塚英一			
		2回戦 愛知商 2-3	同			
		準々決勝 東邦商 8-10	同			
昭16年		野球休止				
昭17年					文部省主催国民体育振興大会	
		昭18年~20年まで 野球休止				
昭21年		野球復活				
昭29年				36回	2回戦 静岡商 4-3	若宮誠一
昭30年	27回	1回戦 若狭高 5-3	若宮誠一			
昭31年	28回	1回戦 浜松商 5-2	同			
昭32年	29回	1回戦 愛知商 0-3	同			
		2回戦 甲府工 0-6	同			
		準々決勝 倉敷工 4-0	同			
昭33年				40回	1回戦 大宮 1-4	若宮誠一
					2回戦 桜ヶ丘 0-4	同
					3回戦 水戸商 0-1	同
					準々決勝 作新学院 2-1	同
昭34年	31回	2回戦 天理 1-2	若宮誠一			
昭34年		準々決勝 南山 1-0	同			
昭35年	32回	2回戦 平安 1-4	同			
		準々決勝 滝川 0-2	同			
		準決勝戦 北海 0-2	同			
		優勝 決勝戦 米子東 1-2	同			
昭36年	33回	2回戦 作新学院 0-2	同			
		準々決勝 東邦 1-4	同			
		準決勝戦 米子東 1-4	同			
		準優勝 決勝戦 法政二 4-0	同			
昭38年	35回	2回戦 市神港 9-1	同			
昭40年	37回	2回戦 米子東 0-4	前川昌三	47回	1回戦 三池工 2-1	前川昌三
		準々決勝 PL学園 2-5	同			
		準決勝戦 市和商 3-1	同			
昭43年				50回	2回戦 小山 1-2	岡田紀明
					3回戦 静岡商 14-0	同
昭45年	42回	1回戦 富山商 2-1	久保正道	52回	1回戦 静岡 0-16	久保正道
					2回戦 広島商 0-1	同
					準々決勝 熊谷商 0-17	同
					準決勝 PL学園 16-5	同
昭48年	45回	1回戦 向陽 0-2	久保正道	55回	1回戦 取手一 1-2	同
		2回戦 鳴門工 5-1	同		2回戦 京都商 0-1	同
					3回戦 銚子商 4-3	同
昭51年	48回	1回戦 崇徳 11-8	若宮誠一	58回	2回戦 銚子商 5-3	若宮誠一
昭52年				59回	2回戦 東邦 6-2	久保正道
昭53年	50回	1回戦 浪商 0-3	久保正道			
		2回戦 東北 5-3	同	60回	1回戦 仙台育英 1-0	久保正道
昭54年	51回	1回戦 府中東 0-8	同			
		2回戦 倉吉北 7-4	同	61回	1回戦 明野 5-4	久保正道
昭55年				62回	1回戦 横浜 8-1	同
昭56年	53回	1回戦 北海道日大 2-3	若宮誠一			
		2回戦 尾道 1-4	同			
		準々決勝 倉吉北 2-1	同			
昭57年					高松市中央球場閉鎖。生島に県立運動公園内に球場が設立。公式戦はここで開催。	
昭58年				65回	1回戦 宇都宮南 2-1	若宮誠一
平2年	62回	1回戦 鳥取西 1-4	岡田紀明			
		2回戦 天理 2-8	同			
		3回戦 新田 4-0	同			
平8年	68回	1回戦 国士館 4-2	宮武学	78回	2回戦 浦和学園 4-9	宮武学
					3回戦 熊本工 5-1	同